

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇全国学力学習状況調査の児童質問調査の結果から、「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」と感じている児童の割合が8割を超えている。</p> <p>◇ICT 機器活用した学習については、9割の児童が自分のペースで学習を進めたり、友達と考えを比較したりするなど、日常的に活用することができたと感じている。</p> <p>◇授業や学校生活では、友だちや周りの意見を大切にして、課題解決に取り組む姿が見られる。</p>
	<p>◇学校評価アンケートから、自己肯定感の高まりや自分の成長を感じられるような授業を進めることができたと感じている教職員の割合と、学習や授業の振り返りから成長を感じていると児童との割合に大きな差が見られた。</p> <p>◇全国学力学習状況調査の結果から、授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じている児童の割合が、全国平均よりも5ポイント以上下回っている。</p> <p>◇算数や理科の学習において、学習したことが普段の生活の中で活用できていると感じている児童の割合が全国平均よりも10ポイント以上下回っている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇全国学力学習状況調査の児童質問調査の「人が困っているとき、進んで助けていますか。」等の向社会性に関わる項目において、肯定的な回答の割合が全国平均よりも5ポイント以上高かった。異学年交流の活動では、遊びだけでなく、教え合いの活動を行うことで他者のよさに気づいたり、認め合ったりする姿が見られ、相互承認の感度の高まりがうかがえる。引き続き、多様性を尊重することや「自分らしさ」を大切にする価値付けを継続し、自己肯定感の高まりにつなげたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

- ◇自ら問いを見出し、探究的に学びを進める力
- ◇他者との関わりを通して考えを広げ、深める力
- ◇学びを振り返り、次の学びへとつなげる力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「主体的に探究し、学びを深め合う子どもの育成」に基づき、児童の学びの成立を目指し、子ども側の視点で日々の授業を見つめ直す。</p> <p>(2) (個人の・全体の) 課題解決に向けて「自分はどんな方法で追究するか。」と見直しをもって学びを進める学習を創出する。</p> <p>(3) 探究的な活動や体験活動を通して、多様な考え方に触れ、よりよいものを見出していくような学習を展開する。</p> <p>(4) 「振り返り」を意識した学習を展開し、子どもがよさや高まりを実感し、次の学びに向かう姿を目指す。</p>	<p>① 子ども一人一人が、自分たちでよりよい生活を追求する価値を味わえるよう、「さっぽろっ子自主的な活動」「プラスのまほう」を意識した活動を促進する。</p> <p>② 「自分たちの手で学校をよりよくする」意識をもち、自主的活動を重視した委員会活動→子どもたちが見直しをもって活動することができるよう、時期を集中して委員会を実施する。）</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇子どもが、1人1台端末を「学習用具の一つ」として捉え、その特性をや強みを生かして、共有や比較、発信や伝達など「使いこなす」活用の定着を図る。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

